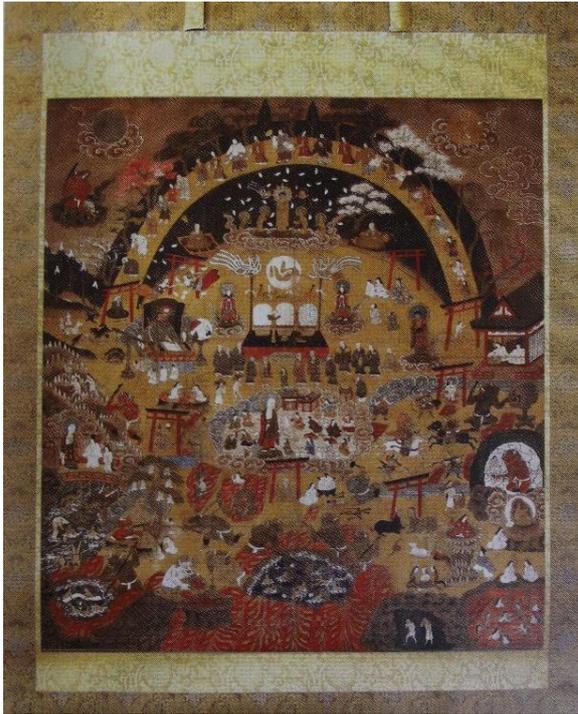


しほんちゃくしよくかんしんじっかいず  
紙本着色観心十界図

東京都指定有形民俗文化財

所在地：瑞穂町箱根ヶ崎 132 番地 圓福寺内



臨濟宗建長寺派・北小山圓福寺  
に古くから伝わる宝物です。別  
名「地獄極楽之図」ともよばれて  
おり、人が生まれ成人し、やがて  
老人となる人生の移り変わりを  
示した部分が上部に描かれてい  
ます。その下方には人が生まれ  
変わり、地獄・餓鬼・畜生の  
三悪道と阿修羅・人間・天上を加  
えた六道(六界)を輪廻してい  
く部分、そして声聞・縁覚・菩

薩・如来の悟界を描いています。この一幅は、諸国を巡歴し、熊野信  
仰を広めていた熊野比丘尼の「絵解き」用具として作られたと言われ、  
特に女性に勧善懲悪を説くために使われたと推察されます。大き  
さは画面が縦 140.6cm、横 127.6cm、製作年代は中世末から近世初  
期と推定されています。文献資料によって、近世中期まで江戸やその  
周辺に熊野比丘尼が遊行していたことは明らかですが、本図はその  
態様を示す希少な民俗資料として平成元年 3 月 24 日に、東京都指定  
有形民俗文化財に指定されました。